

## 社会学部報

### ◇学部講演会および研究会

- 1995年6月28日(研究会特別例会)  
講師 金 応烈 客員教授  
「在米韓国人の歴史と現状」

### ◇海外出張

- 藤原 武弘 教授  
6月20日(火)から6月23日(金)まで  
アジア社会心理学会に出席するため香港へ
- 真鍋 一史 教授 (出向中)  
7月9日から13日まで  
第5回国際フェセット・セオリー学会で研究発表するためオランダへ
- 山路 勝彦 教授  
7月24日(月)から9月4日(月)まで  
エスニシティと少数民族運動調査のため台湾へ
- 藤戸 淑子 教授  
7月27日(木)から8月20日(日)まで  
ロンドン大学夏期講座聴講及び社会言語学関係の資料収集のためイギリスへ
- 藤原 武弘 教授  
8月4日から14日まで  
クラーク大学ワッパー教授と对人的攻撃行動に対する態度の、日米比較研究に関する打ち合わせのためアメリカへ
- 荒川 義子 教授  
8月17日から26日まで  
日米被災地を結ぶともだちの旅(NOG連絡協議会主催)のアドバイザーとして同行し、ロスアンゼルスでの現地調査及び資料収集のためアメリカへ
- 高坂 健次 教授  
8月20日から9月19日まで  
中国雲南省少数民族の研究のため中国へ
- 谷 直子 専任講師  
8月20日(日)から9月15日(金)まで  
スタンフォード大学夏期英語講座に出席のためアメリカへ

- 対馬 路人 教授  
8月17日から27日まで  
在日コリアンの社会的ネットワークと文化動態に関する調査の一部として、在日コリアン出身地済州道とのネットワークを調査するため韓国へ
- 立木 茂雄 助教授  
8月21日から9月5日まで  
カナダにおけるボランティアと行政の関係に関する面接調査のためカナダへ
- 川久保 美智子 助教授  
8月30日から9月13日まで  
交換研究員として中国人民大学へ
- 西山 美瑛子 教授  
9月7日から14日まで  
中国進出日系企業及び外資系企業の調査研究を行うため中国へ
- 山路 勝彦 教授  
9月10日から9月30日まで  
西サモアにおける伝統文化人の人類学的調査のためパラオ共和国へ
- 対馬 路人 教授  
9月11日から17日まで  
台湾における新宗教運動の調査及び資料収集のため台湾へ
- 宮田 満雄 教授  
9月19日から23日まで  
同窓会支部総会出席のため、シンガポール及びインドネシアへ
- 津金澤 聡廣 教授  
9月22日から26日まで  
日中両国における衛星放送の受信環境についての実態調査計画打ち合わせのため、中国へ

### ◇海外出向

- 真鍋 一史 教授  
4月10日(月)から9月8日(金)まで  
客員教授として「日本社会論」の講義を担当及び客員研究員として「世論の国際比較研究」に従事するため米国ミシガン大学へ

## ◇留学

- 浅野 仁 教授  
4月1日(土)から1996年3月31日(金)まで  
高齢者福祉の実証的研究のためアメリカ合衆国へ
- 倉田 和四生 教授  
5月1日(月)から7月31日(月)まで  
エスニシティの研究のためイギリス、アメリカ、カナダへ

## ◇会員の新著書

- 荒川義子教授、浅野 仁教授、立木茂雄助教授(分担執筆)  
「社会福祉援助技術演習」川島書店 1995、4
- 津金澤 聡廣 教授(共編)  
「現代メディアを学ぶ人のために」  
世界思想社 1995、7

## ◇受賞紹介

- 鳥越 皓之 教授  
「第3回 福武 直賞」受賞  
『地域自治会の研究』(ミネルヴァ書房、1994年、関西学院大学研究叢書 68編)

## 学 会 消 息

## ◇日本広報学会

- 1995年3月24日に東京・経団連会館において、日本広報学会(Japan Society for Corporate Communication Studies)の設立発起人会・設立総会が開かれ、コーポレート・コミュニケーションに関する分野についての調査研究を行う新しい学会として発足した。総会で会長には、関本忠弘・日本電気(株)取締役会長が、理事長には、富塚文太郎・東京経済大学学長が選出された。本学部津金澤聡廣教授は理事に選任され、組織委員会担当となった。

## ◇日本人間工学会

- 5月31日より開催され、理事会、評議員会に本学の杉山貞夫教授が出席した。

## ◇日本マス・コミュニケーション学会

- 1995年度の総会および春季研究発表会が、6月3日(土)4日(日)の両日本学B号館並びにE号館において開催された。全国から多数の会員が出席し、個人研究発表をはじめ11のワークショップ、並びに特別報告「阪神大震災とマス・メディア」、シンポジウム「戦後日本のジャーナリズム—戦争報道を中心として—」など、活発な報告と討議が行なわれた。総会では新理事として本学部の真鍋一史教授が選任された。

本学における学会開催に当っては、柚木学長はじめ大学関係部局並びに、牧社会学部長はじめ学部事務室の皆様にも物心両面から大変お世話になった。この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。また、学会が盛況裡に終ることができたのは、準備や当日の事務雑務を積極的に分担してくれた(学部の会員は勿論)大学院生有志、芝田・津金澤ゼミの学部学生有志の協力のおかげであり、記して感謝したい。なお、本年度秋季研究発表会は10月21日(土)に、尚美学園短大(川崎市)にて開催予定である。

## ◇情報通信学会

- 1995年度総会および春季研究発表会は、6月16日(金)17日(土)両日、慶応大学にて開催された。とりわけ本年1月17日の阪神大震災に関しては、特別シンポジウムとして「阪神大震災と情報通信」というテーマで活発な報告と討論が展開された。パネリストは被災地域から2名、東京から2名という構成で白熱した議論が交わされた。本学部からは、立木茂雄助教授(非会員)がパネリストの一人に選ばれ、司会進行は津金澤教授が担当した。

## ◇日本地域福祉学会

- 日本地域福祉学会第9回大会は6月17日・18日、北九州国際会議場と北九州大学で開催され、高田教授と瓦井氏(大学院後期課程)が参加した。大会テーマは「地域福祉新時代を探る」であったが、ことに今回は「災害と地域福祉——阪神・淡路大震災が投げかけた

もの——」という特別レポートが生まれ、会員の強い関心が示された。

学会として大震災地域福祉研究委員会を設置して研究を継続すること、また来年度は被災地である神戸市で大会を開催することも決定され、それぞれに高田教授が参画することになった。

#### ◇日本 CELSS 学会

- 6月25日より環境科学技術研究所で開催され、理事会に本学の杉山貞夫教授が出席した。

#### ◇国際ファセット理論学会

- 第5回国際ファセット理論学会が1995年7月9日～13日、オランダのアムステルダムにおいて開催された。

本学からは真鍋一史教授が参加し、Techniques for classification of questionnaire items in cross-national comparisonsと題する研究発表を行った。なお、この発表に対し、関西学院大学国際学会参加費補助金が支給された。

#### ◇HCI, INTERNATIONAL '95

- 7月11日より横浜で開催され、本学の杉山貞夫教授が参加、同大会顧問会に出席した。

#### ◇日本航空人間工学会

- 7月24日、航空宇宙技術研究所で開催された大会に、本学の杉山貞夫教授が参加、同役員会に出席した。

#### ◇人間工学 4 大学学生教員合同研修会

- 8月31日、産業医科大学で開催され、本学の杉山貞夫教授が基調講演「閉鎖型環境のもたらす生理・心理・社会的影響」を行った。

#### ◇国際標準機構幹事国運営委員会

- 9月4日、東京霞ヶ関尚友会館 NEDO 会議室で開催され、本学の杉山貞夫教授が出席した。

## 学位取得

かつて本学大学院社会学研究科に在学した佐藤望氏は社会学修士を修得後、産業医科大学大学院医学研究科に進学し、同大学院生体情報系専攻課程で研究をつづけていたが、「正常月経周期を有する若年女性における心拍変動性のパワースペクトル解析」と題する論文をまとめ、論文審査および最終試験に合格、本年3月10日付で同大学より医学博士の学位を授与された。女性の社会進出にともなう産業医学上の基礎的問題の一つで、女性労働の改善に資するところ大である。現在、同氏は近畿大学理工学部経営工学科助手として活躍中である。  
(杉山貞夫)

執筆者紹介 (掲載順)

倉田和四生	関西学院大学教授	足立重和	関西学院大学大学院 社会学研究科博士課程後期課程
佐々木 薫	関西学院大学教授	中野秀一郎	関西学院大学名誉教授
眞鍋一史	関西学院大学教授	土肥伊都子	関西学院大学大学院 社会学研究科研究員
川久保美智子	関西学院大学助教授	石川明	関西学院大学教授
荻野昌弘	関西学院大学助教授	高坂健次	関西学院大学教授

社会学部研究会会員

会 長	牧 正 英				
運 営 委 員	森 川 甫	津 金 沢 聡 廣	西 山 美 瑳 子		
	荒 川 義 子	宮 原 浩 二 郎	三 浦 耕 吉 郎		
会 計 監 査	中 山 慶 一 郎	宮 田 満 雄			
書 記	土 屋 明 生				
名 譽 会 員	本 出 祐 之 郎	半 田 一 吉	J. A. ジョイス		
	小 関 藤 一 郎	萬 成 村 重 博 夫	中 野 秀 一 郎		
	西 尾 朗 子	岡 村 重 夫	領 家 穰 光		
	嶋 田 津 矢 子	杉 原 方	清 水 盛 光		
	田 中 國 夫				
	(A. B. C 順)				
普 通 会 員	倉 田 和 四 生	杉 山 貞 夫	武 田 建		
	佐々木 薫	張 田 光 夫	船 本 弘 毅		
	春 名 純 人	紺 田 千 登 史	村 川 滿 郎		
	真 鍋 一 史	山 路 勝 彦 之	山 本 剛 四 郎		
	高 田 眞 治	鳥 越 皓 健 次 夫	安 藤 文 四 郎		
	浅 野 仁 人	高 坂 田 正 淑 夫	石 川 野 木 次 郎		
	對 馬 路 人 弘	芝 藤 戸 美 智 子	芝 野 松 次 郎		
	藤 原 武 弘	藤 川 久 保 美 智 子	立 野 木 茂 雄		
	A. ブレイデー	川 谷 直 子	荻 野 昌 弘		
	田 中 耕 一				

## 関西学院大学社会学部研究会会則

### 第1章 総 則

#### 第1条

本会は関西学院大学社会学部研究会と称する。

#### 第2条

本会は本学部における社会学と関連諸科学の教育・研究の推進を計ることを目的とする。

#### 第3条

本会は事務局を西宮市上ヶ原一番町1—155 関西学院大学社会学部内におく。

### 第2章 事 業

#### 第4条

本会は第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 研究会などの開催
2. 機関誌「関西学院大学社会学部紀要」などの刊行
3. 会員相互の研究・教育に関する連絡および協力
4. 本学部の教育・研究に対する協力
5. 国内外関係諸学会との協力
6. その他本会の目的を達成するために必要な事業

### 第3章 会 員

#### 第5条

本会の会員は次のとおりとする。

1. 名誉会員 本会に功労のあったもので、本会の推薦するもの
2. 普通会員 本学社会学部専任の教授、助教授、講師および助手
3. 賛助会員 本会の趣旨に賛同するもの

### 第4章 運営組織

#### 第6条

第2章記載の事業を行うため、本会には以下の委員、委員会等をおく。

1. 会長は当該年度の社会学部長とし、本会には以下の委員、委員会等をおく。
2. 運営委員（6名）：運営委員は普通会員の中から互選し、運営委員会を構成する。
3. 運営委員長（1名）と会計（1名）：運営委員長と会計は運営委員の中から互選する。
4. 運営委員会は第4条に記された事業の企画・運営にあたる。

なお、機関誌「社会学部紀要」の編集については運営委員会内に複数の委員をもって構成される編集委員会を置く。編集委員長は、運営委員長が兼ねることがある。

5. 会計監査（2名）：会計監査は普通会員の中から互選する。
6. 書記は社会学部事務長に委嘱する。

#### 第7条

本研究会委員の任期は2年とする。重任を妨げない。

### 第5章 総 会

#### 第8条

総会は定期総会と臨時総会とし、会長が主宰する。定期総会は毎年一回開催され、臨時総会は会長が必要と認めるとき、あるいは普通会員の1/2以上の要求があった場合に開催される。議決は出席者の過半数をもって行う。

#### 第9条

総会の承認を必要とするものは第6条第1項のほか、次の事項とする。

1. 事業計画および収支予算
2. 事業報告および収支決算
3. その他運営委員会において必要と認めた事項

### 第6章 会 計

#### 第10条

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

#### 第11条

本会の経費は次の収入をもってあてる。

1. 会 費  
普通会員年額 31,200円  
賛助会員年額 10,000円
2. 寄付および補助助成による金品
3. その他の収入

#### 第12条

本会員および本学社会学部大学院学生・大学院研究員並びに学部学生は機関誌の配布を受ける。学生の購読費は年間2,600円とする。

### 付 則

#### 第1条

本会の事業運営に必要な諸規定は、運営委員会の議を経て別に定めることができる。

#### 第2条

本会の会則変更および本会の解散、ならびに、これに伴う財産の処分等については、総会において、出席者の2/3以上の同意を得ることを要する。

#### 第3条

本会則は1992年4月1日より施行する。

## 「社会学部紀要」編集内規

1992年4月1日施行

1. 「社会学部紀要」(以下、本紀要という)は原則として、当該年度中に2回発行する。6月末を締切日とする号は10月上旬の配布を、11月末日を締切日とする号は3月25日の配布を目標とする。
2. 本紀要の企画、編集、発行は社会学部研究会「社会学部紀要」編集委員会がおこなう。
3. 本紀要に掲載される原稿の種類は以下に掲げるものとする。
  - ①原著
  - ②研究ノート
  - ③学部および社会学部研究会主催、共催の講演会の講演原稿
  - ④書評、内外の学術研究、学術集会の動向の紹介
  - ⑤社会学部最優秀卒業論文賞(安田賞)受賞論文
  - ⑥その他編集委員会が必要と認めた記事
4. 本紀要への投稿有資格者は社会学部研究会名誉会員、ならびに普通会员とする。なお、共同執筆者は名誉会員あるいは普通会员の推薦を受けた者、名誉会員あるいは普通会员と共同研究をおこなった者とする。

大学院学生ならびに研究員単独の論文原稿の掲載に関しては、普通会员による推薦と編集委員会の審査を経て決定する。
5. 原稿の執筆に際しては、以下の様式に従うものとする。
  - ①原著については、原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙100枚以内、研究ノートについては原則として図表、写真を含めて200字詰め原稿用紙60枚以内とする。ワードプロセッサによる原稿については字数においてそれらに相当する分量とする。
  - ②手書き原稿に用いる原稿用紙は研究会指定の200字詰め横書き原稿用紙とする。
  - ③図表、写真等は題字、説明つきですべて本文とは別紙とし、本文中に挿入する個所を本文欄外に指示すること。

図凸版(トレース、写植代)は10,000円を限度として社会学部研究会が負担するが、それを超える分は執筆者の負担とする。
  - ④原稿には和文および英文の表題をつける。また執筆者名、所属機関名についても同様とする。
6. 本紀要に発表する原著論文、研究ノートは他に未発表のもの、または学会大会等での口頭発表の主題をその学会等の了解のもとに原稿にまとめたものに限られる。
7. 外国語による原稿については編集委員会において審議の上、許可することがある。分量は日本語原稿の場合に準ずるものとする。
8. 編集委員会が依頼した外国語原稿を翻訳して掲載する場合には、その翻訳者に対し翻訳料を支払うものとする。その金額については社会学部研究会運営委員会で審議の上決定する。
9. 本紀要に掲載された論文等は無断で他の雑誌等に転載することを禁ずる。

また、執筆者がすでに外国語または日本語で発表した論文等を日本語または外国語に翻訳して掲載を希望する場合には、編集委員会において審議のうえ、それを許可することがある。ただし、この場合、著作権処理に関する責任は全て執筆者が負うものとする。その場合の翻訳料は支払わない。
10. 本紀要の執筆者に対しては本誌1部と抜刷30部を無料で配布する。ただし、それ以上の抜刷を希望する場合、その実費は本人の負担とする。
11. 発行された紀要は名誉会員、普通会员、大学院学生、大学院研究員および学生に配布する。また、本紀要は上記以外の者に頒布することができる。なお、頒布料は原則として学生の購読料と同額とする。
12. この編集内規は研究会運営委員会の議を経て変更することがある。ただし、その変更はその年度の社会学部研究会総会で報告されなければならない。

---

＜編集後記＞

---

去る1月17日の阪神大震災は関西学院にも大きな傷跡を残しました。亡くなられた方がたのご遺族の上に主なる神の大きな慰めと励ましがありますようにお祈り致します。また、精神的にも、物質的にも大きな被害を受けられた方々が早く元の正常な状態に戻られますようお祈り致します。震災のため約2週間始業が遅れた春学期は瞬く間に過ぎ去りました。秋学期には充実した教育研究活動ができることを願いつつ、「紀要」第73号をお手元にお届け致します。

研究会運営委員会はメンバーが大幅に変わりましたが、前年度までの方針を継承し、研究会活動の充実と「紀要」の活性化に努め、さらに、新しい方策を打ち出して行きたいと検討しております。

春学期には、特別例会を1回開催致しました。6月28日、交換教授の金広烈客員教授に「在米韓国人の歴史と現状」という題で研究発表をして頂きました。秋学期には、特別例会2回、定例研究会3回を予定しております。大震災の影響をはね除けて、活発な研究会活動を致したいと願っております。ご協力とご参加をお願い致します。

本号に論文、研究ノートを寄稿して下さった方がたに感謝致します。安田賞受賞論文も掲載することができました。

6月に着任されました湯原陽里香主事が編集の事務を担当して下さいました。お世話を厚く感謝致します。(森川)

---

1995年10月1日 印刷

1995年10月10日 発行

編集発行人 牧 正 英

発行所 関西学院大学社会学部研究会

〒662 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所 尼崎印刷株式会社

〒661 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話 (06)494-1122(代)

**KWANSEI GAKUIN**

**SOCIOLOGY DEPARTMENT STUDIES**

(SHAKAIGAKUBU-KIYO, KWANSEI GAKUIN DAIGAKU)

---

No. 73

October 1995

---

---

The Study Association of Sociology Department

**KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**

Nishinomiya, Japan

---